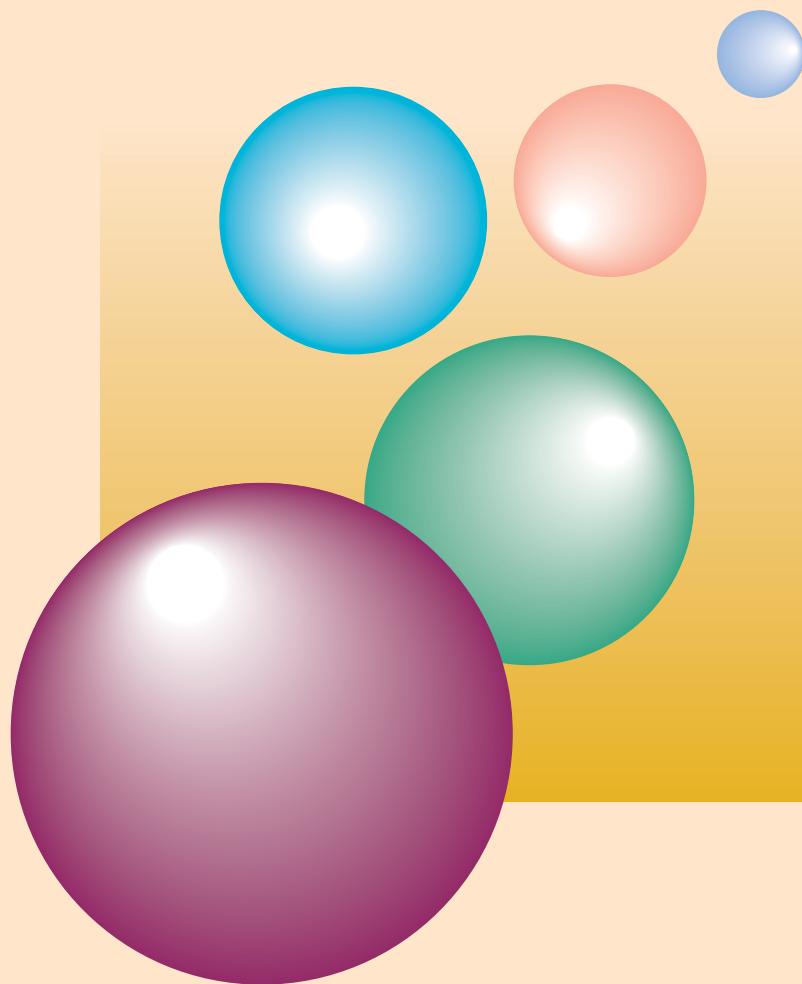




# 第69期中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日



# 株主の皆様へ

株主の皆様には、格別のご高配にあずかり、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第69期第2四半期（2019年4月1日～2019年9月30日）の営業概況につきましてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出に弱さが見られ、先行き不透明感が増加いたしました。また、世界経済は米中貿易摩擦等の影響により、中国を中心に減速傾向が顕著となりました。

このような環境にあって当企業グループは、軸受機器においてはお客様のニーズに迅速かつ的確に対応することで受注獲得に注力するとともに、欧米、中国、インド、アセアンでは非日系顧客の拡大に重点を置いた活動を推進してまいりました。また、構造機器においては鉄道インフラへの受注拡大に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は29,590百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は2,298百万円（前年同期比3.5%減）、経常利益は2,501百万円（前年同期比1.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,662百万円（前年同期比0.6%減）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

## 軸受機器

オイルレスベアリングは無給油あるいは給油の回数や量を大幅に減少させることができ、省資源・環境への配慮の観点から自動車をはじめ各種産業機械などに幅広く採用されております。



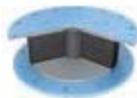
一般産業機械向け製品は主力である産業車両向けや射出成形機向けの受注が減少した事により、売上は減少いたしました。自動車向け製品は欧米、中国、インドの売上が減少し、軸受機器全体でも売上、利益ともに前年を下回りました。

この結果、軸受機器の売上高は21,267百万円（前年同期比7.0%減）、セグメント利益は1,551百万円（前年同期比33.0%減）となりました。

売上高構成比  
**71.8%**

## 構造機器

オイルレスベアリングの長年にわたる研究開発で培ったトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）技術から派生して開発された免震・制震の技術は、人命、社会的財産や都市機能などを地震から守ります。



建物向け製品は前年並みの売上を確保し、橋梁向け製品は前年の売上を大きく上回りました。この結果、構造機器の売上高は4,978百万円（前年同期比38.6%増）、セグメント利益は696百万円（前年同期比349.8%増）となりました。

売上高構成比  
**16.8%**

## 建築機器

風、太陽光を自在に操り、快適で安全な室内環境を実現する建築機器製品は高層ビル、公共施設、病院や住宅などあらゆる建築物に採用されております。



主力製品であるウィンドウ オペレーターはリニューアル物件の売上が増加いたしました。また、住宅向け製品は前年並みの売上を確保いたしました。

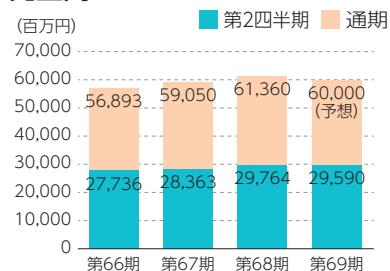
この結果、建築機器の売上高は2,685百万円（前年同期比4.4%増）、セグメント利益は40百万円（前年同期はセグメント損失96百万円）となりました。

売上高構成比  
**9.1%**

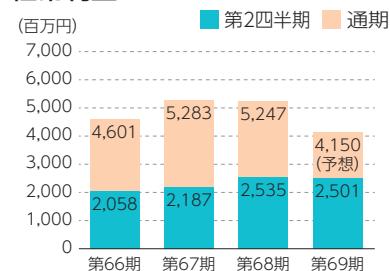


## 営業成績および財産の状況の推移（連結）

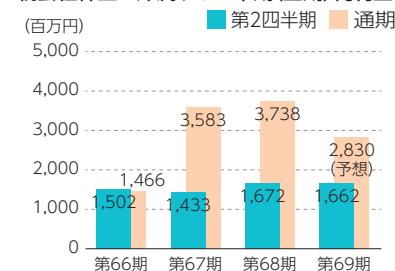
### 売上高



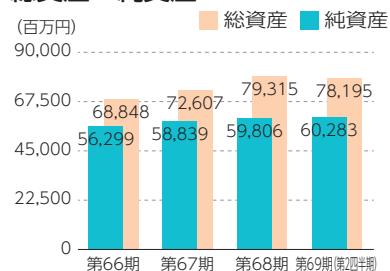
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



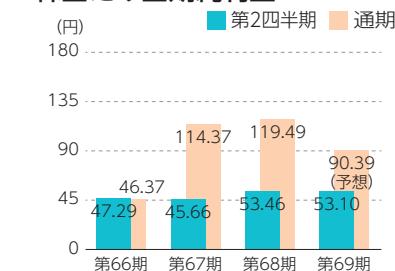
### 総資産・純資産



### 1株当たり純資産



### 1株当たり当期純利益



※『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等の適用により、第66期から第67期に係る「総資産」については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

今後の見通しにつきましては、顧客視点を第一に、グローバル市場での受注・開発・生産活動を強化してまいります。軸受機器事業は、さらなる競争力強化に向けた合理化、省力化を推進してまいります。また、次の半世紀を支える研究開発体制を強化いたします。

構造機器事業は、当社の強みを発揮できる市場の形成に注力することで競争力の確保を図るとともに、独自の品質、技術力で社会に貢献し続け、安心、安全を提供してまいります。

建築機器事業は、ウィンドウ オペレーターのメンテナンスおよびリニューアル物件の獲得と、省エネに有効な外付けブラインドの認知度を向上させるための販売促進活動を強化し、売上拡大に努めてまいります。

これらの施策により、当期におけるグループ全体での売上高は600億円、営業利益は40億円、経常利益は41億円を見込んでおります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役社長

飯田昌弥

# 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

期別	前期末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)	期別	前期末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)
<b>科目</b>			<b>科目</b>		
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
① 現金及び預金	18,226	19,934	支払手形及び買掛金	6,654	5,442
② 受取手形及び売掛金	19,217	17,069	未払法人税等	223	589
有価証券	1,499	1,499	賞与引当金	1,027	1,115
商品及び製品	3,990	3,876	役員賞与引当金	110	59
仕掛品	3,161	3,373	株主優待引当金	80	25
原材料及び貯蔵品	2,869	2,705	その他	3,781	2,930
その他	1,460	1,205	<b>流動負債合計</b>	<b>11,877</b>	<b>10,163</b>
貸倒引当金	△56	△55	<b>固定負債</b>		
<b>流動資産合計</b>	<b>50,369</b>	<b>49,610</b>	長期借入金	6,000	6,000
<b>固定資産</b>			役員退職慰労引当金	55	51
<b>有形固定資産</b>			役員株式給付引当金	40	57
建物及び構築物(純額)	9,435	9,147	退職給付に係る負債	669	592
機械及び装置(純額)	5,280	5,422	その他	865	1,046
土地	2,914	2,912	<b>固定負債合計</b>	<b>7,631</b>	<b>7,748</b>
③ その他(純額)	2,568	2,979	<b>負債合計</b>	<b>19,509</b>	<b>17,911</b>
<b>有形固定資産合計</b>	<b>20,199</b>	<b>20,461</b>	<b>純資産の部</b>		
<b>無形固定資産</b>	<b>549</b>	<b>468</b>	<b>株主資本</b>		
<b>投資その他の資産</b>			資本金	8,585	8,585
投資有価証券	5,951	5,744	資本剰余金	9,728	9,728
退職給付に係る資産	125	124	利益剰余金	43,897	44,774
その他	2,135	1,800	自己株式	△5,412	△5,410
貸倒引当金	△14	△14	<b>株主資本合計</b>	<b>56,797</b>	<b>57,677</b>
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>8,197</b>	<b>7,654</b>	<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>固定資産合計</b>	<b>28,946</b>	<b>28,584</b>	その他有価証券評価差額金	1,615	1,514
<b>資産合計</b>	<b>79,315</b>	<b>78,195</b>	為替換算調整勘定	653	283
			退職給付に係る調整累計額	△266	△248
			<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>2,003</b>	<b>1,549</b>
			<b>非支配株主持分</b>	<b>1,005</b>	<b>1,056</b>
			<b>純資産合計</b>	<b>59,806</b>	<b>60,283</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>79,315</b>	<b>78,195</b>

## POINT① 現金及び預金

仕入債務の増加に比べ売上債権の減少が大きかったため、現金及び預金が増加いたしました。

## POINT② 受取手形及び売掛金

期末に向けて売上高が増加する傾向にあることから、前期末と比較して当四半期末の売上債権が減少いたしました。

## POINT③ その他(純額)

リースに関する会計基準が変更となり、新規で計上したために増加いたしました。

# 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	期別 前第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	当第2四半期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
① 売上高	29,764	29,590
売上原価	19,252	19,650
売上総利益	10,512	9,940
販売費及び一般管理費	8,129	7,641
営業利益	2,382	2,298
営業外収益		
受取利息	44	47
受取配当金	84	84
為替差益	18	—
デリバティブ評価益	—	80
その他	113	176
営業外収益合計	260	388
営業外費用		
支払利息	7	11
為替差損	—	154
デリバティブ評価損	87	—
その他	12	19
営業外費用合計	107	185
経常利益	2,535	2,501
特別利益		
投資有価証券売却益	0	5
特別利益合計	0	5
特別損失		
固定資産処分損	6	8
減損損失	13	—
② 投資有価証券評価損	—	70
特別損失合計	19	79
税金等調整前四半期純利益	2,515	2,427
法人税等	782	700
四半期純利益	1,733	1,727
非支配株主に帰属する四半期純利益	61	64
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,672	1,662

## POINT① 売上高

軸受セグメントは、軸受機器全体で売上が前年を下回りました。構造セグメントは、橋梁関係の売上高が大きく増加いたしました。

## POINT② 投資有価証券評価損

一部保有株式の時価が低下したため評価を切り下げました。

# 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

科目	期別 前第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	当第2四半期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,132	4,387
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,262	△1,650
財務活動によるキャッシュ・フロー	△803	△871
現金及び現金同等物に係る換算差額	△337	△85
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,271	1,779
現金及び現金同等物の期首残高	16,208	18,860
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,936	20,639

# 製品トピックス

## 軸受機器

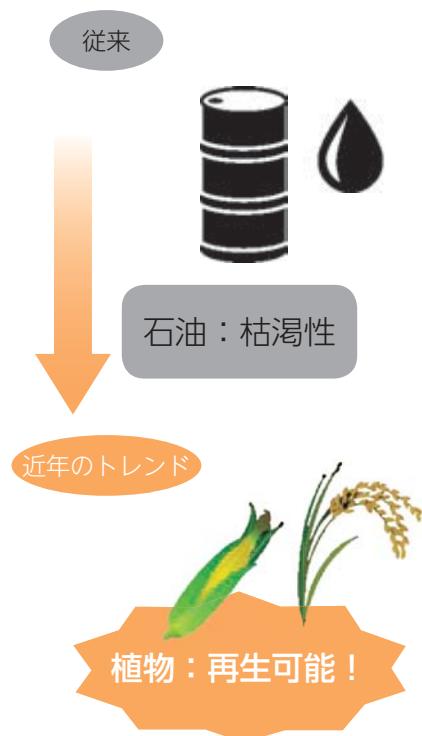
### バイオマスプラスチック軸受を開発しました

当社は、サトウキビやトウゴマを原料に精製されたバイオマス<sup>\*1</sup>プラスチックに摩擦性能を向上させる充填剤を添加することで、世界トップクラスの高バイオマス・高性能バイオマスプラスチック軸受を開発しました。

植物を原料に精製されるバイオマスプラスチックは、石油のような枯渇性資源ではなく再生可能な有機資源から持続的に作ることができるという重要性に加え、CO<sub>2</sub>の増減に影響をあたえないカーボンニュートラル<sup>\*2</sup>な性質を持っており、地球温暖化対策に有効な材料として注目されています。今後ますますバイオマスプラスチックに対する需要が見込まれますが、当社は本製品によりCO<sub>2</sub>排出量削減を実現し、循環社会への実現に貢献してまいります。

※1 再生可能な生物由来の資源（化石資源を除く）

※2 原料燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量÷植物の成長過程における光合成時のCO<sub>2</sub>吸収量



#### ▼植物を主原料とした当社の軸受

主原料の植物	バイオマスプラスチック軸受
 サトウキビ	 バイオマス度 90% オイレス#81-B1
 トウゴマ	 バイオマス度 45% オイレス#83-B1



## 構造機器

### 阪神百貨店本店（大阪・梅田）に、当社の制震装置が採用されました

インバウンドの急激な増加・消費者の生活スタイルの多様化など、百貨店を取り巻く環境変化の中で、商業施設激戦区・梅田で創業から85年を迎えた阪神百貨店本店が新しく生まれ変わります。その変革に、当社の制震装置が貢献しています。

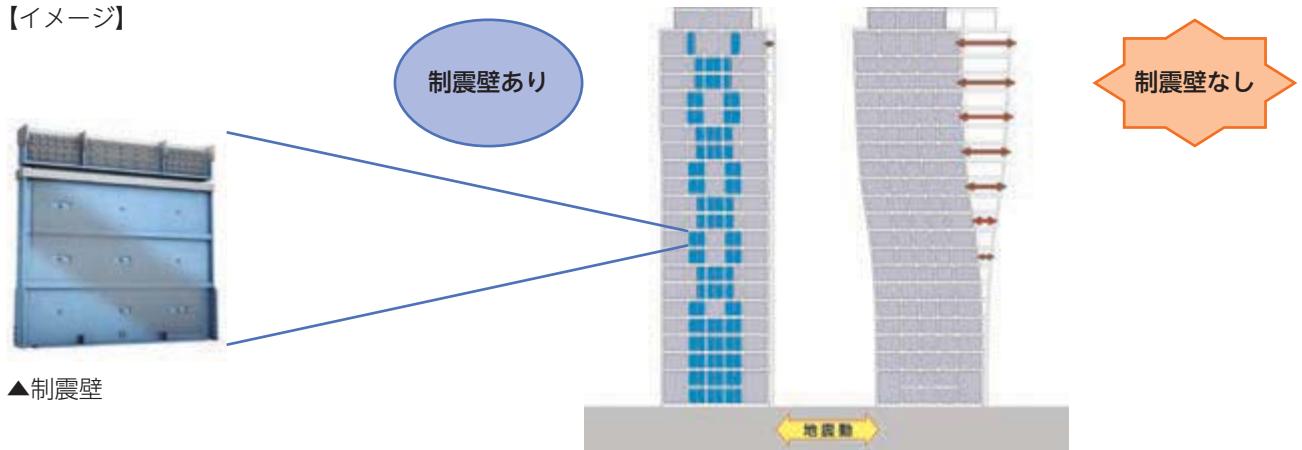
2022年春に竣工予定の「梅田1丁目1番地計画※」に、当社の制震装置（制震壁）が230基採用されています。本計画は、周辺公共施設の整備と一体的におこなうことで、都市機能の高度化・防災機能の強化・公共的空間の創出・良好な景観形成などを通じて国際競争力の強化に資する快適で質の高いまちづくりを目指して計画されました。また、建設されるビルとビルとの間の道路上空を活用した建て替えによってこれを実現しております。



当社の技術は、大地震や強風時に建物の機能を維持することで、持続可能な都市機能の維持と人々の暮らしに安心と安全を届けております。

※阪神百貨店本店が入居する大阪神ビルディングおよび新阪急ビルの建て替え計画

#### 【イメージ】





## 建築機器（オイレスECO株式会社）

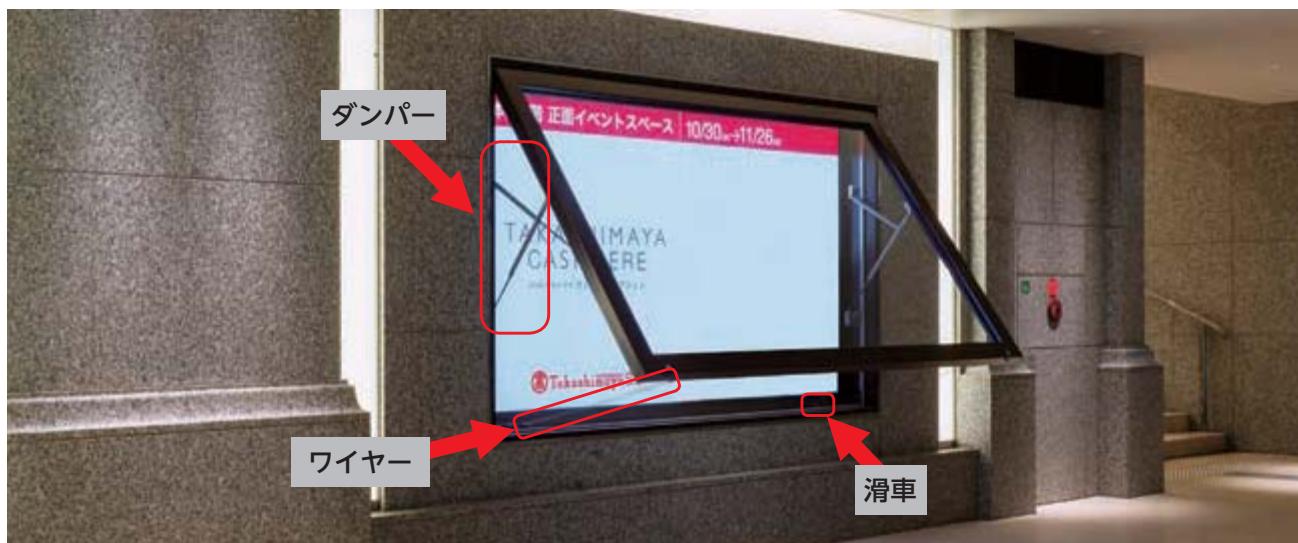
### 日本橋高島屋の電子看板にオペレーターの技術が採用されました

1933年にオープンした日本橋高島屋。2009年には、百貨店建築初の重要文化財の指定を受け、昭和初期から現存する百貨店建築の中で最大級の規模を誇り、内外装ともに当初の姿を良好に保っています。

そんな歴史ある建築物のお客様をお迎えする入口に、当社の換気排煙窓開閉装置（ウィンドウ オペレーター）が形を変えて採用されました。

2019年3月、本館の改装によって開業した日本橋高島屋 S.C.。地下1階の入口付近と地上1階の入口横に大きなデジタルサイネージ（電子看板）が設置されています。このデジタルサイネージを覆うガラスのカバーは重量136kg。メンテナンス時に容易に開閉したいというご要望を、ウィンドウ オペレーターの応用により実現しています。

「モノを動かす」ことを得意とする視点から、今後当社の技術を現有製品に留めることなくお客様のニーズに応えながら幅広い分野に広げ、より快適で便利な未来の実現に寄与してまいります。



# CSR（企業の社会的責任）の取り組み



## □オイレスグループの製品・技術は、SDGsの実現に貢献しています。

オイレスグループでは、CSRに関する中長期目標や年次目標を設定して、その達成に向けた取り組みをおこなっています。事業に関する社会の課題や社会からの要請に対して特に重要な課題に適切に組み、持続可能な社会の実現に貢献するため、2018年には組織として取り組むべき8つの重要課題を特定しました。そして、その重要課題に対して中長期目標・KPI（＝重要業績評価指標）を設定し、それぞれの分野におけるCSRの取り組みを推進しています。



▲CSR推進への取り組みの一環として、社員へSDGsピンバッジを配付しています。

オイレスグループ CSR重点課題	
コンプライアンス	人権の尊重
サプライチェーンマネジメント	人材の確保と育成
地球温暖化防止	労働安全衛生の確保
製品の品質・安全性の確保	地域社会との共生・社会貢献活動

## □国連グローバル・コンパクトへの署名

国連は、持続可能な世界を実現するための国際目標であるSDGs（＝Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）を定めて世界中の国々が取り組むことを求めています。そうした取り組みに対して世界中の企業や団体等が自発的に参加することを推奨する「国連グローバル・コンパクト」という制度を運営しており、現在、世界で1万社近くの企業・団体がその趣旨に賛同して参加しています。

▼グローバル・コンパクトロゴ



当社もCSR活動を積極的に推進する観点から、国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同して2019年7月に署名をおこないました。

### CSR報告書

当社では2017年からCSR報告書を作成しており、内容は当社WEBサイトでご覧いただけます。

<http://www.oiles.co.jp/corporate/csr/>

報告書に関するご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<https://www.oiles.co.jp/contact/>





# 株式に関するご案内



## ■単元未満株式買取制度について

当社株式の証券市場での取引は100株（1単元）単位となっているため、単元未満株式（1～99株）は、市場で売ることができませんが、以下のお手続きによって市場価格で売却（現金化）することができます。

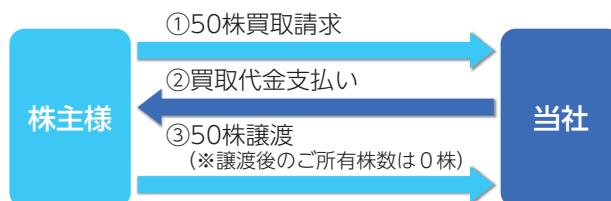
なお、当社は単元未満株式の買増制度は採用していません。

### 《買取請求に関するお問い合わせ先》

証券会社等の口座に記録された株式→お取引の証券会社へ

特別口座に記録された株式→株主メモに記載のみずほ信託銀行証券代行部へ

（具体例：50株ご所有の場合）



## ■特別口座から証券会社等の口座への振替について

株券電子化に伴って、証券会社等を通じて証券保管振替機構に株券を預託されなかった株主様の株式は、株主様の権利を守るため、みずほ信託銀行に開設された特別口座に記録されています。

特別口座にて管理されている株式100株以上を市場で売却するには、下図のとおりお手続きが必要です。

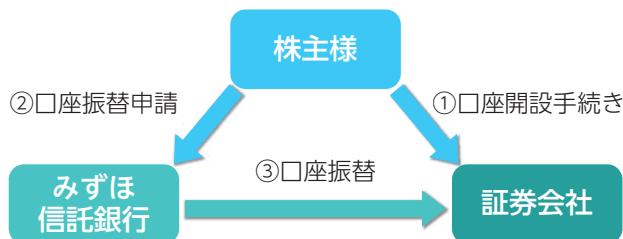
### 《特別口座の口座振替に関するお問い合わせ先》

みずほ信託銀行証券代行部

※詳細は株主メモをご参照ください。

※特別口座とは、株券電子化（2009年1月5日）前に、証券保管振替機構に株券を預託されなかった株式を管理するために、当社がみずほ信託銀行に開設した口座です。

（具体例）



## 株主さま向けアンケート

株主の  
皆さまの声を  
お聞かせください



当社では、  
株主の皆さまの  
声をお聞かせいただくため、  
アンケートを実施します。  
お手数ではございますが、  
アンケートへのご協力を  
お願いいたします。

下記 URL にアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>



アクセスコード  
6282

いいかぶ

検索



空メールにより  
URL 自動返信



kabu@wjm.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用の URL が直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、  
右のQRコードからもアクセスできます。  
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから  
約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝  
(図書カード500円)を進呈させていただきます



\*本アンケートは、株式会社 a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)

\*ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-6779-9487 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。